

富士市集約・連携型都市づくり推進戦略の改定について

— 第3回都市計画審議会 —

災害ハザード情報

目 次

① 洪水浸水想定区域（計画規模）	1
② 洪水浸水想定区域（想定最大規模）	2
③ 家屋倒壊等氾濫想定区域	3
④ 津波浸水想定区域、津波避難対象区域	4
⑤ 土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、地すべり防止区域、 災害危険区域、急傾斜地崩壊危険区域	5
⑥ 大規模盛土造成地	6
⑦ 過去の災害履歴	7
⑧ 富士山噴火 避難対象エリア	8

① 浸水想定区域 (計画規模)

洪水浸水想定区域 (計画規模)

- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5m以上

【誘導区域】

- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

【区域】

- 行政界
- 市街化区域
- 市街化調整区域

【道路・公共交通】

- 鉄道駅
- 新幹線
- 在来線
- 高速道路
- 国道・県道

【計算条件】

- 確率：
 富士川 1/150年
 潤井川 1/100年
 小潤井川、沼川、赤淵川 1/50年

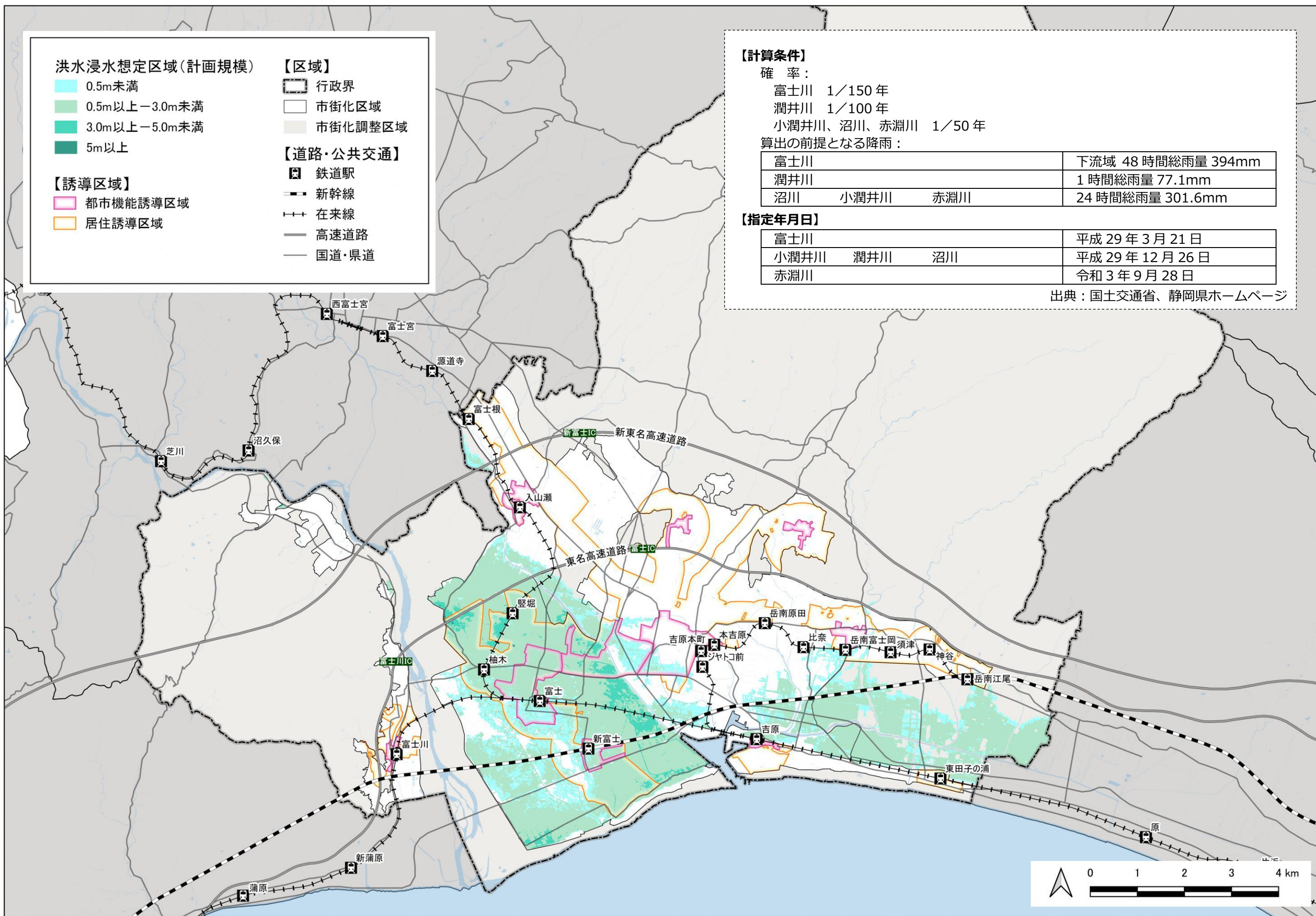
算出の前提となる降雨：

富士川	下流域 48時間総雨量 394mm
潤井川	1時間総雨量 77.1mm
沼川 小潤井川 赤淵川	24時間総雨量 301.6mm

【指定年月日】

富士川	平成 29年 3月 21日
小潤井川 潤井川 沼川	平成 29年 12月 26日
赤淵川	令和 3年 9月 28日

出典：国土交通省、静岡県ホームページ



② 浸水想定区域 (想定最大規模)

洪水浸水想定区域 (想定最大)

- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5.0m以上 - 10.0m未満
- 10.0m以上

【誘導区域】

- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

【区域】

- 行政界
- 市街化区域
- 市街化調整区域

【道路・公共交通】

- 鉄道駅
- 新幹線
- 在来線
- 高速道路
- 国道・県道

【計算条件】

確率:

1/1,000年

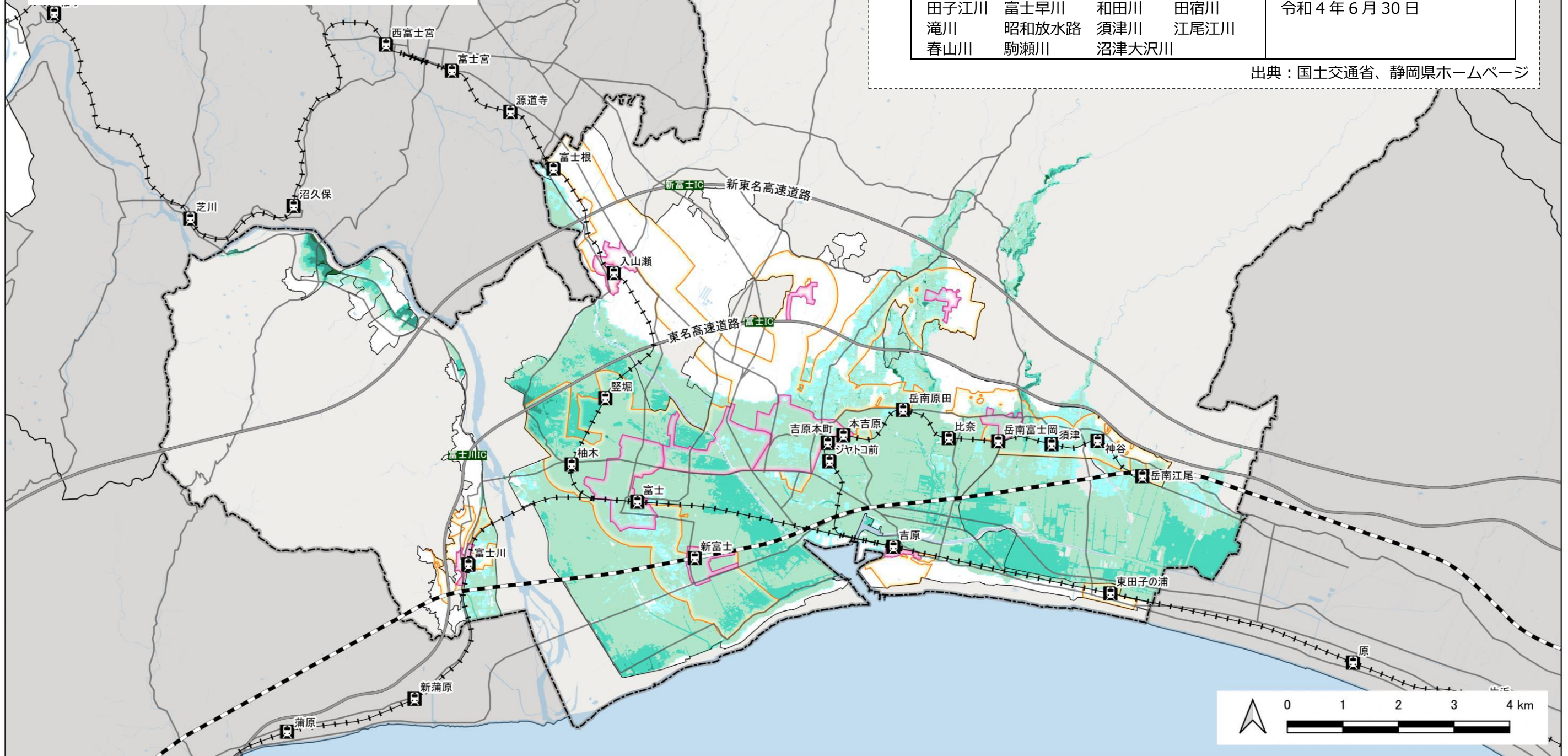
算出の前提となる降雨:

富士川	下流域 48時間総雨量 565mm			
潤井川	田子江川	富士早川	24時間総雨量 673.4mm	
沼川	小潤井川	赤淵川	和田川	24時間総雨量 694.5mm
田宿川	滝川	昭和放水路	須津川	
江尾江川	春山川	駒瀬川	沼津大沢川	

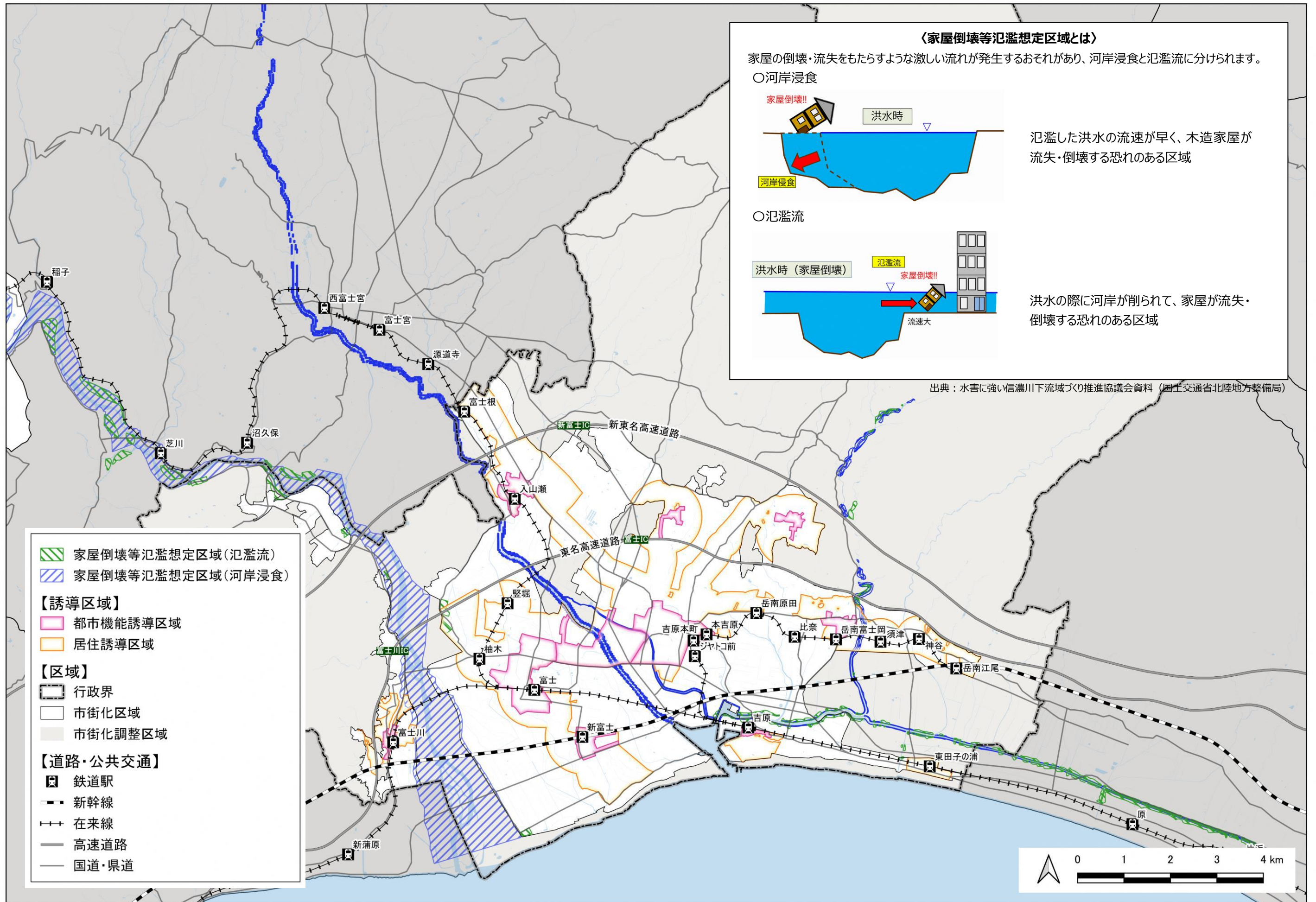
【指定年月日】

富士川	平成 29年 3月 21日			
小潤井川	潤井川	沼川	平成 29年 12月 26日	
赤淵川	令和 3年 9月 28日			
田子江川	富士早川	和田川	田宿川	令和 4年 6月 30日
滝川	昭和放水路	須津川	江尾江川	
春山川	駒瀬川	沼津大沢川		

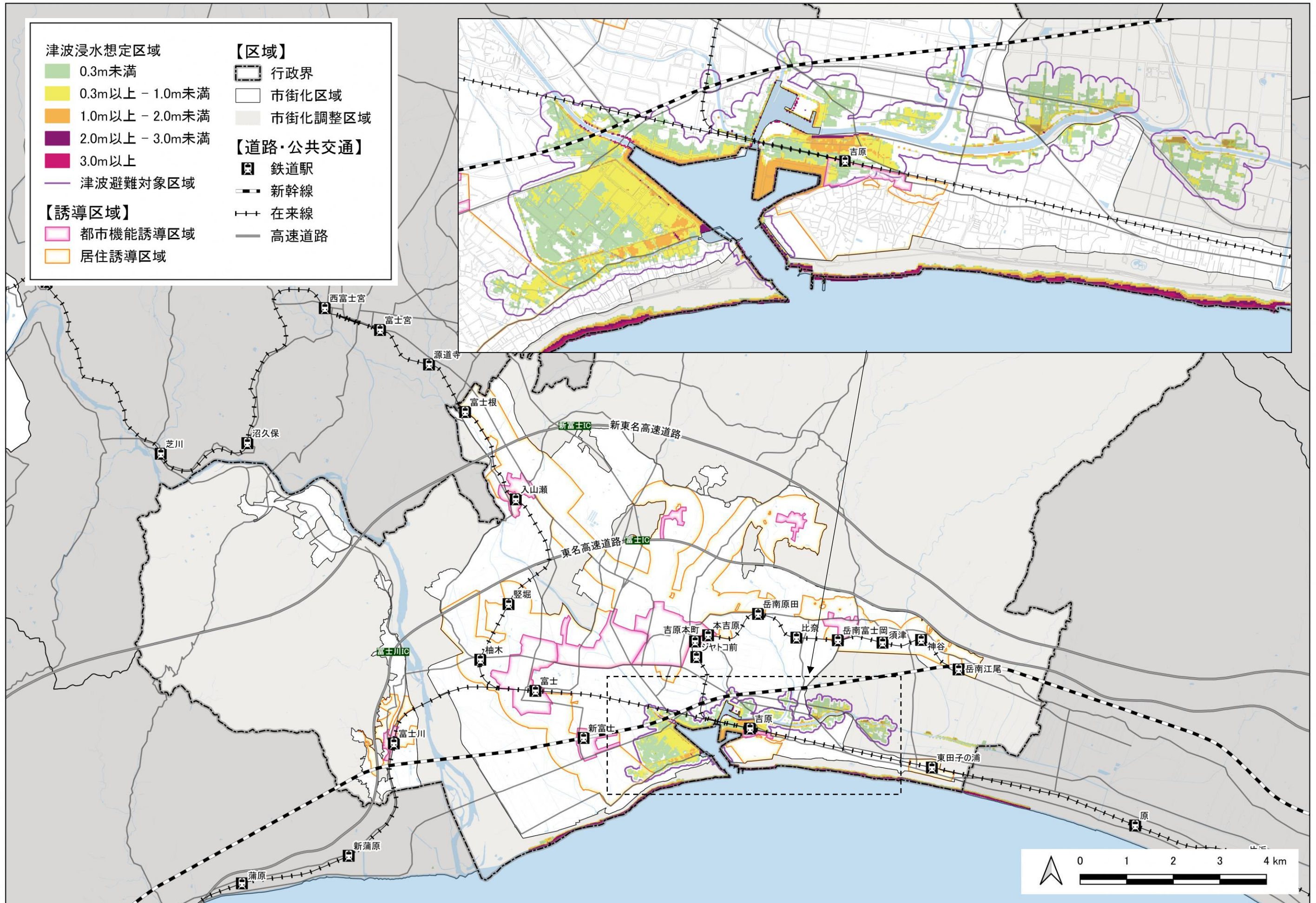
出典：国土交通省、静岡県ホームページ



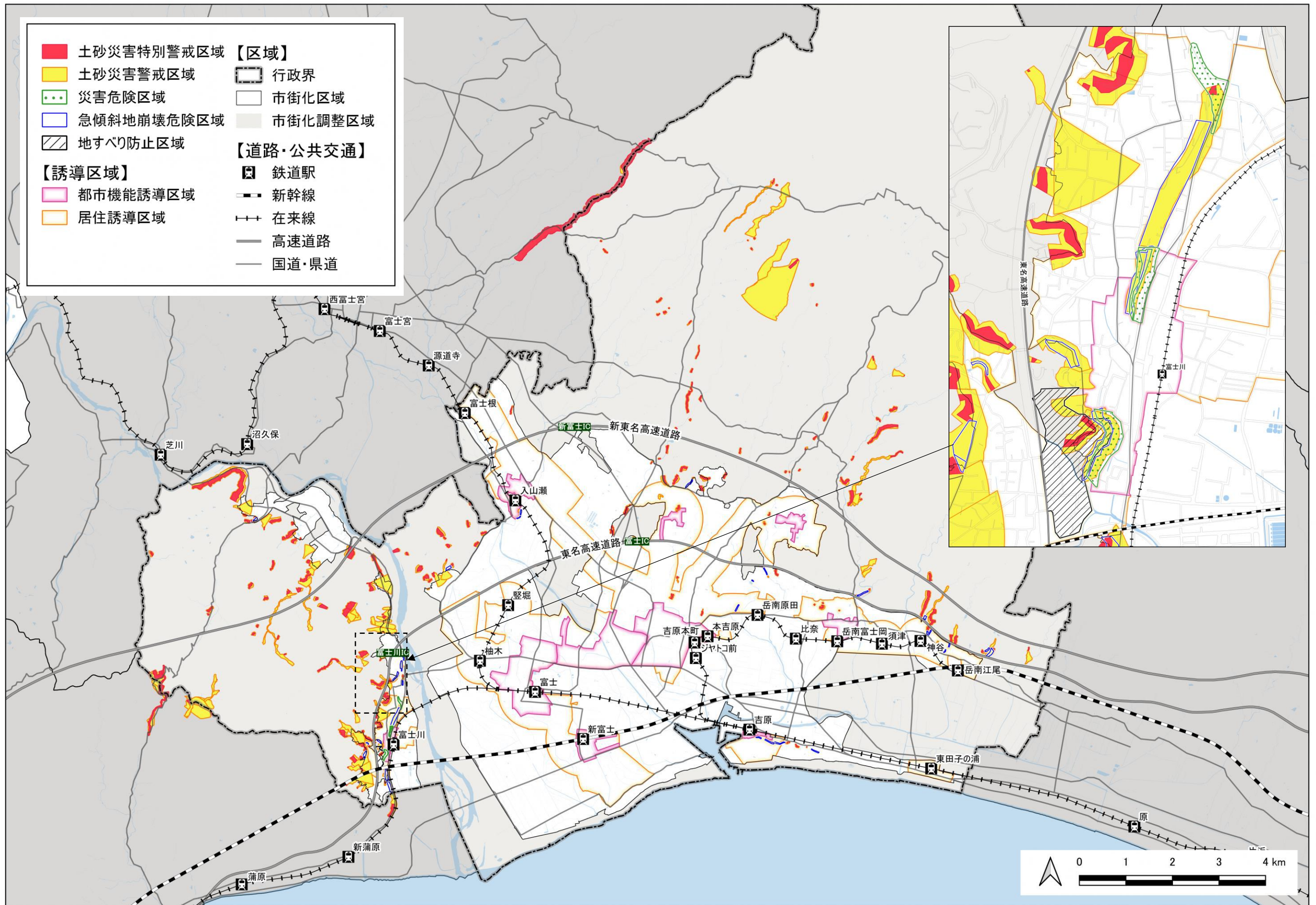
③ 家屋倒壊等氾濫想定区域



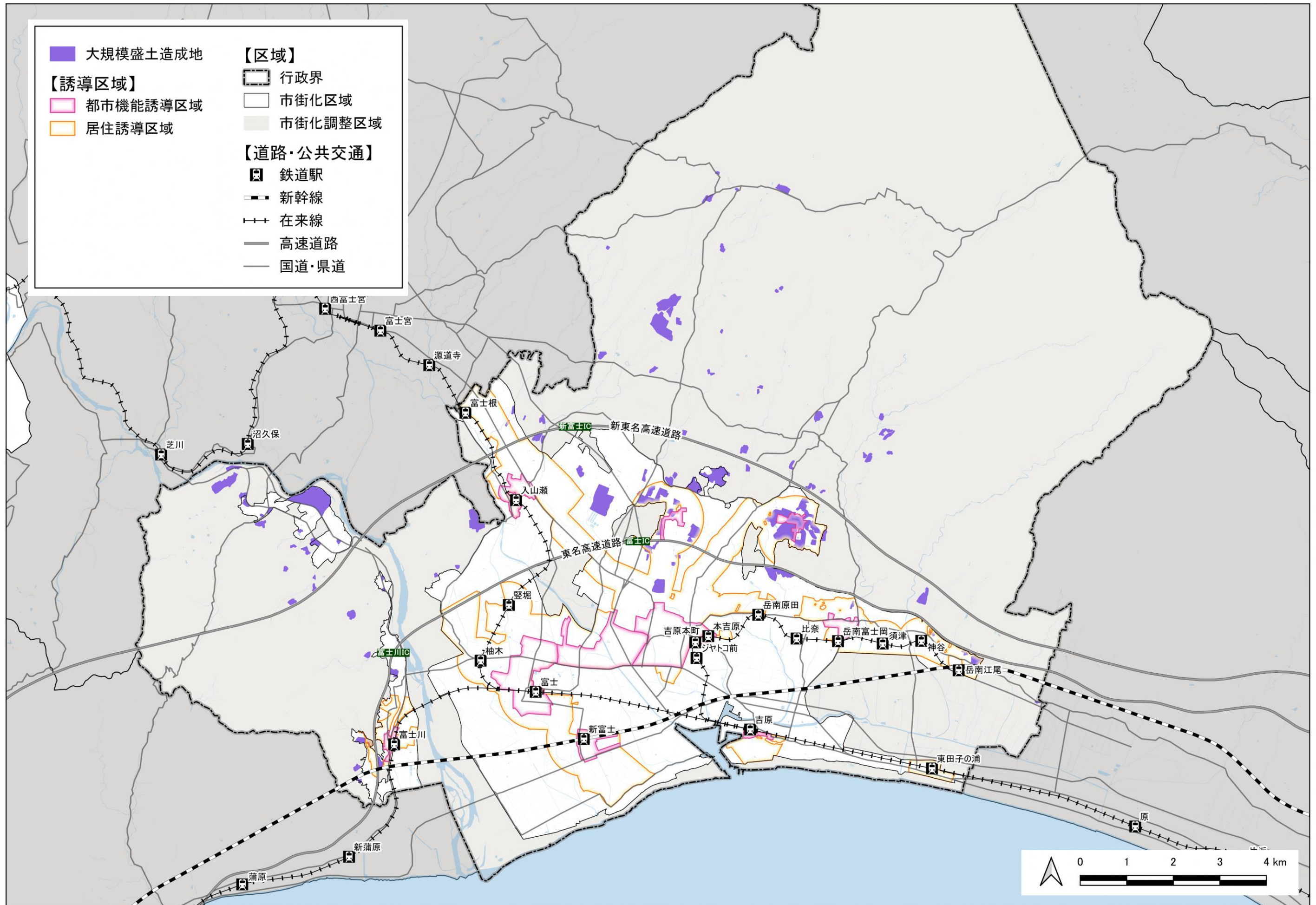
④ 津波浸水想定区域、津波避難対象区域



⑤ 土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、地すべり防止区域、災害危険区域、急傾斜地崩壊危険区域



⑥ 大規模盛土造成地



⑦ 過去の災害履歴

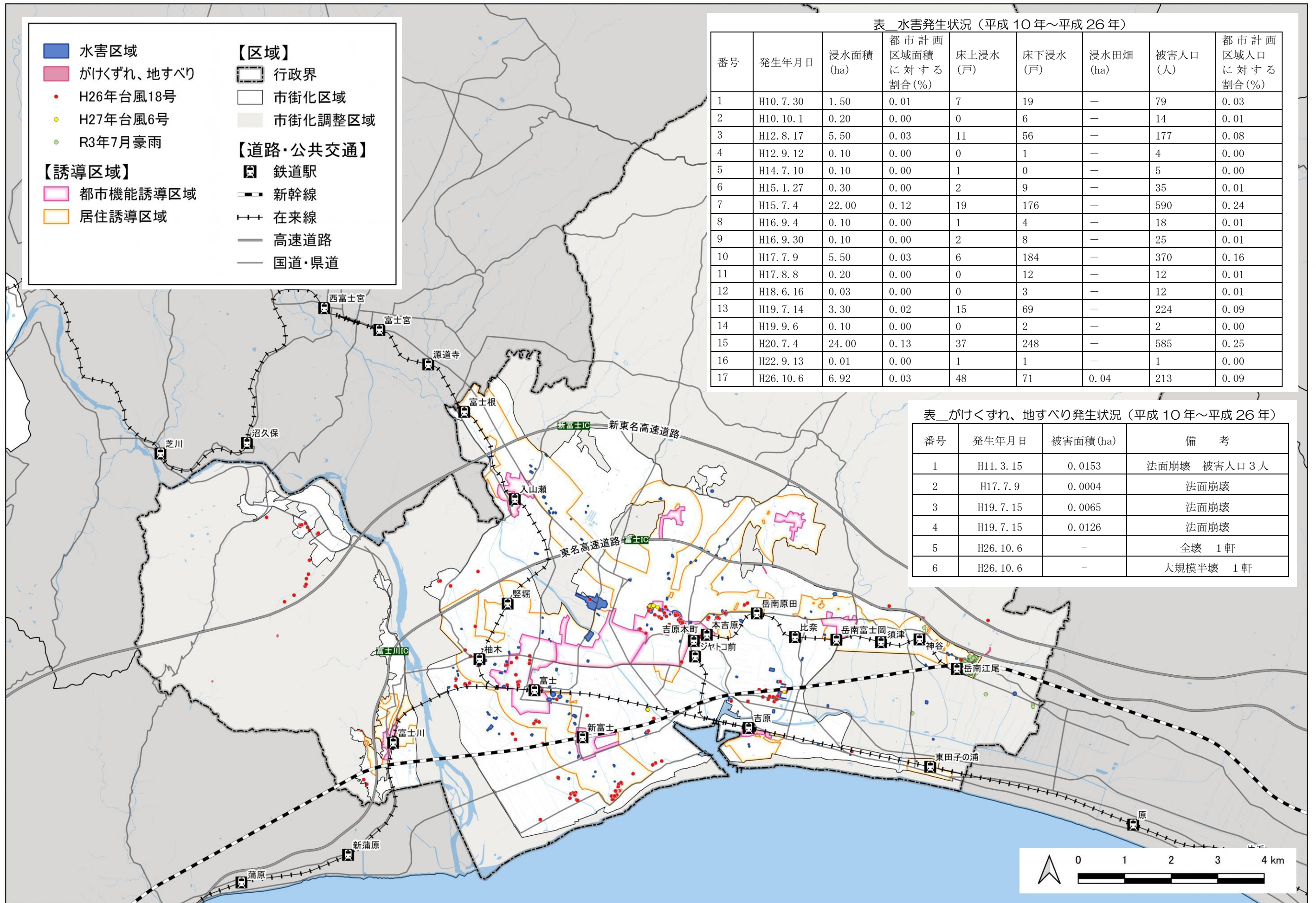


表 水害発生状況（平成10年～平成26年）

番号	発生年月日	浸水面積 (ha)	都市計画区域面積に対する割合 (%)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	浸水田畑 (ha)	被害人口 (人)	都市計画区域人口に対する割合 (%)
1	H10. 7. 30	1.50	0.01	7	19	—	79	0.03
2	H10. 10. 1	0.20	0.00	0	6	—	14	0.01
3	H12. 8. 17	5.50	0.03	11	56	—	177	0.08
4	H12. 9. 12	0.10	0.00	0	1	—	4	0.00
5	H14. 7. 10	0.10	0.00	1	0	—	5	0.00
6	H15. 1. 27	0.30	0.00	2	9	—	35	0.01
7	H15. 7. 4	22.00	0.12	19	176	—	590	0.24
8	H16. 9. 4	0.10	0.00	1	4	—	18	0.01
9	H16. 9. 30	0.10	0.00	2	8	—	25	0.01
10	H17. 7. 9	5.50	0.03	6	184	—	370	0.16
11	H17. 8. 8	0.20	0.00	0	12	—	12	0.01
12	H18. 6. 16	0.03	0.00	0	3	—	12	0.01
13	H19. 7. 14	3.30	0.02	15	69	—	224	0.09
14	H19. 9. 6	0.10	0.00	0	2	—	2	0.00
15	H20. 7. 4	24.00	0.13	37	248	—	585	0.25
16	H22. 9. 13	0.01	0.00	1	1	—	1	0.00
17	H26. 10. 6	6.92	0.03	48	71	0.04	213	0.09

表 がけくずれ、地すべり発生状況（平成10年～平成26年）

番号	発生年月日	被害面積 (ha)	備考
1	H11. 3. 15	0.0153	法面崩壊 被害人口3人
2	H17. 7. 9	0.0004	法面崩壊
3	H19. 7. 15	0.0065	法面崩壊
4	H19. 7. 15	0.0126	法面崩壊
5	H26. 10. 6	—	全壊 1軒
6	H26. 10. 6	—	大規模半壊 1軒

⑧ 富士山噴火 避難対象エリア

凡 例

- 火口ができる可能性の高い範囲
(この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。)
- 噴火しそうなる時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。(噴火した場合に、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。)
- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
- 火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲(この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。)
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲(3時間程度を想定)
- すぐに危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人(お年寄りや入院患者等)は早めに避難して下さい。(溶岩が流れ続けた場合に、1日程度で到達する範囲を示しています。)
- すぐに危険にはなりませんが、たいへん大きな噴火の場合に火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される情報に注意して下さい。(溶岩が流れ続けた場合に、数日間以上で流れ下る範囲を示しています。)
- 雪が積もっている時に噴火しそうになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要があります。積もった雪が火砕流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。)
- 火山灰が厚く積もっている場合には、大雨警報が出た時に避難する必要があります。火山灰が厚く(10cm以上)積もっている地域では少しの雨でも土石流が発生しやすくなりますので注意しましょう。(「土石流災害危険渓流および土石流危険区域調査要領(案)」に基づいて、抽出した渓流及び氾濫範囲を示しています。)
- 火山噴火の時に使える避難施設
- 地震や火災の時に使えるが火山噴火の時には溶岩流の到達範囲にあり、使えない可能性のある避難施設
- 広域避難地
- 市役所
- 地区防災拠点(公民館)
- 自衛隊集結地
- 緊急輸送路
- 消防署・分署
- 警察署・交番・駐在所
- 救護病院
- ヘリポート

